

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

みらい創造クラブ、利根川 正です。

3つの質問をお願いします。

1、地域農業のみらいについて。

糸魚川市の農業は、経営規模が小さく稲作を中心とした兼業農家が多く、機械の導入、水田の維持にコストがかかり、農業従事者の減少や高齢化が進んでおり、農業所得の向上、担い手の確保と育成を地域全体で支える農業の構築が課題となっています。

今回、8月に開催された、地域農業みらい会議において、糸魚川の6地区に参加させていただきました。

地域農業を将来にわたって維持するための話合いで、いろいろな意見を聴くことができましたが、会議で若い方の参加が少なかったことが残念でした。

(1) 就農希望者が必ず就農を実現できるよう、研修から就農自立までの一貫した支援体制の構築が必要と思いますが、市の考えを伺います。

(2) 稼げる農業の仕組みづくりで、休耕田を利用して園芸、花の活用、農業機械の共同化など地域全体で稼ぐ仕組みをプロジェクトとして進めてはどうかと思いますが、市の考えを伺います。

(3) 集落営農組織、大規模農家の法人化を進めてもらい、同時に地域の農地を中間管理機構でまとめてもらい、それを活用して、法人に貸し出すことを進められないか伺います。

(4) 企業の農業促進ということで、地元建設会社の参入がありますが、多様な業種にリース方式で耕作放棄地を貸し出すことができないか伺います。

(5) 一般コシヒカリのJA仮渡金が、20年度産比較で1,800円減少したことについて、予想を超える減額幅をどう受け止めたか伺います。

2、森林管理と木材加工の現状について。

糸魚川市は、市域の87%が森林資源となる山林で構成され、県内でも有数の森林保有自治体ですが、間伐も進んでおらず森林の高齢化が進んでいる状態です。また、小規模製材工場も厳しい態勢で弱体化しています。

しかし、昨年度からのウッドショックを好機と捉え、ウッドチャンスに変えていく具体的な事業展開が求められています。

(1) 地元材を優先利用していく方策等があれば伺います。

(2) 小規模製材工場5社は、近年まで地元木材価格の下落により厳しい現状で、生産、売上アップを前提とした補助制度の活用は難しい状況ですが、これら製材工場に対しての支援等の考えがあるか伺います。

(3) 山林所有者の申出により、森林環境譲与税を活用した伐採が進められないか伺います。

(4) 原木搬出に大型トラックでの木材運搬をしていますが、林道等には傷みがひどい箇所があ

ります。林道整備事業で、定期的に整備、改修をしているか伺います。

### 3、GIGAスクールいといがわについて。

小学校、中学校は、生涯学び続けるための基礎スキルを身に付け、聞く、読む、書くことと、計画を立て準備し、協力、集中、実行して学ぶところであります。

多岐にわたって発達段階に応じて学力を伸ばしていき、卒業時には生涯学び続ける力が備わると考えます。

今回、ICT（情報通信技術）を活用した学校教育で、紙の教科書の内容をタブレット端末などに取り込んだ、デジタル教科書がスタートする予定であります。ICTの活用により、多様化、複雑化する社会のニーズに対応する力を育成する取組だと理解していますが、導入によるメリットと課題について、以下の項目を伺います。

- (1) タブレットのメリットは、どのようなものがあるか伺います。
- (2) タブレットの利用で学習効果は上がっているか伺います。
- (3) 視力の悪化など検証をしているか伺います。
- (4) 低学年で想定外の事態が起きていないか伺います。
- (5) 通信環境のない家庭もあり、この対応はできているか伺います。
- (6) デジタル教科書が来年度スタートですが、文字や図の拡大ができ、障害がある児童生徒の学習に効果があると聞いています。そこで特別支援学校、学級での利用を考えているか伺います。
- (7) 令和2年7月の学校職員業務見直しの改善状況について伺います。
- (8) 小中学校夏休み後の新型コロナウイルス感染症対策の実施状況について伺います。

以上、質問の内容です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

利根川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、経営が安定するまでの間、国が支援する制度があるほか、市においても関係機関とともに個々の課題への支援も実施いたしております。

2点目につきましては、既に園芸等に取り組んでおられる地区もあることから、これらの取組を検証し、周知してまいります。

3点目につきましては、地域の話合いに基づく農地の利用調整が重要であり、市も関係機関と連携し、支援を行っております。

4点目につきましては、一定要件を満たした場合は、農地を借りることは可能となっております。

5点目につきましては、農業経営の影響だけではなく、今後の経営意欲の低下にもつながるものではないかと懸念いたしております。

2番目の1点目につきましては、木造住宅等への助成、木製品の商品開発への支援など、地場産材の利用促進を図っております。

2点目につきましては、地場産材の需要拡大に向けた取組や林業及び地域の活性化につながる新

たな取組に対し、支援してまいります。

3点目につきましては、山林所有者の申出による個別対応は難しいと考えております。

4点目につきましては、林業事業体の森林整備に合わせ、計画的に林道整備を進めております。

3番目のご質問によりましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

利根川議員の3番目のご質問にお答えいたします。

1点目と2点目につきましては、画面を触って感覚的に操作できることがメリットであり、1人に1台ずつ配備していることから、どの子も自分の学びが保障されており、特に学習意欲の向上が図られております。

3点目につきましては、視力低下などが起きないように、30分に1回以上の休憩を取るよう指導しております。また、これまでと同様に、視力検査を定期的に行っております。

4点目につきましては、特に大きな問題は起きていませんが、低学年に限らず学年に応じたルールによる使い方の指導を行うとともに、管理システムによる一括管理により、使用状況を把握しております。

5点目につきましては、各家庭に通信環境を整えるようお願いしており、要保護家庭等には、これまでの就学援助金に通信費の一部を上乗せして支給しております。

6点目につきましては、デジタル教科書は現在教師用として、国語、算数、数学、英語など各校が希望する教科書を採用しており、教科によっては、特別支援学級でも同様に活用しております。今後の国のデジタル教科書導入の動向を注視しながら、適切に対応してまいります。

7点目につきましては、各校での様々な課題解決に向けた取組により、職員一人一人が徐々に自分のタイムマネジメントについて考え、業務改善を行っていることを把握していますが、小学校では行事前、学期末の繁忙期、中学校では、それに加えて部活動の大会前などに超過勤務等が多いという課題は残っています。

しかしながら、ICTの利活用を進めるなど徐々に業務改善を進めてまいります。

8点目につきましては、マスクの着用、手指消毒、換気などの基本的な感染防止対策を継続するとともに、検温と日々の健康管理と再度徹底し、体調不良の場合には、無理に登校させないなどの措置を取っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

2回目の質問をお願いいたします。

まず、農業について、今回の地域みらい会議の目的は、地域農業を将来にわたって維持する話合いで、各地域農業者、関係機関が集まり、開催されました。地域の現状を把握し、将来にわたって地域の誰が担っていくか、誰が農地を集積・集約していくか、人農地プランの実質化について話しました。

(1) 番の就農希望者の体制について質問します。

2019年度の農業の新規従事者は4名、林業が2名、漁業が2名の方が就職しています。若い人に農業の魅力は何か聞くと、糸魚川では、米作りでは稼げない、米価の状況が厳しいため不安、夢が持てないと言います。農業従事者の1,460名余り、そのうち65歳以上は1,150名、78%の割合で高齢化している現状で、新たに若い就農希望者、また、定年退職者も含めて担い手育成事業などを用い、農業を実現できるように支援体制がつかれないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

一定の要件を満たした場合に、新規就農希望者に対しまして、就農前の研修期間においては最長2年間、農業を始めてから経営が安定するまでの間は、最長5年間、国が最大年150万円を支援する制度がありまして、当市においても受給されてる方がおられます。

また、市としましても関係機関とともに、担い手ケース会議を毎月開催しまして、農業者個々の課題への対応も実施していることから、ある程度の支援体制は構築できていると考えております。

就農希望者にとって、所得の確保はもちろん一番大事なことではありますが、農業の魅力というのは、それだけではないと思います。地域のベテラン農家の方から、農業の魅力やご自身の経験を伝えていただくなど、ぜひ地域の皆様からも支援をお願いしたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

今年度、担い手育成事業の予算も昨年より多くなっておりますので、ぜひ支援体制のほうをお願いしたいと思います。

続きまして2番、稼げる農業の仕組みづくりについて、新規経営支援事業など休耕田を利用して、園芸作物、花などを機械を使い、地域全体で作物を作る仕組みづくり、集落にお金が落ちる雇用を生む取組をプロジェクトとして立ち上げられないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

市内におきましては、遊休農地を活用した山菜園を開設したり、高齢者が集まって、食彩館に出荷する野菜を栽培している地区などがございます。

また、休耕田ではありませんが、県営の圃場整備事業を実施している地区におきましては、実施区域の一部において、園芸にも取り組むこととされておりまして、中心となって取り組む担い手の方を中山間直払いの集落協定組織が積極的に支援しているという地区もございます。

市内においても、このような様々な事例がありますことから、プロジェクトではなく、モデルとして広く市民の方に、また農家の方に周知を図ってまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

そのようなモデルを市民の皆さんに分かるように伝えてもらいたいと思います。

続きまして、3番目、農地集積・集約化対策事業で、県平均の半分ほどで糸魚川市は集約が進んでいません。山地が多く、大型機械が使えないなど条件面で違いがありますが、今回の農地中間管理機構では、農地を貸したい、出し手が、自ら農地を借りたい受け手を見つけて初めて中間管理機構に届ける仕組みで、自ら受け手を見つけるのが大変厳しい状況です。両方をうまくマッチングする仕組みを考えてもらいたいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

農地中間管理機構は、県全体の組織でありまして、個々の現場に入っただけの利用調整というのは困難というふうに考えております。地域の話合いに基づきます農地の利用調整というものが重要でありまして、また、様々な情報は地域にあることから、農業委員や農地利用最適化推進委員、また、中山間の直払いの役員さんなどに入ってもらいながら利用調整を進める形で、今後も進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、集落営農組織、また、大規模農家の法人化を一步前へ進めるために説明会などを考えてもらいたいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

以前、地域農業懇談会におきまして、市内の事例を基に法人化等の説明をさせていただいたことがありますが、あまりちょっと反応が薄かったというのが正直なところでございます。

ただ、議員おっしゃいますように、担い手確保の観点からも組織化、法人化は必要と考えておりますので、検討してみたい、あるいは話を聞いてみたいという場合は、ぜひお気軽にお声をかけていただきたいと思います。関係機関とともに対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひよろしく申し上げます。

（４）番、企業の農業促進について。こちらは例としてですが、山梨県北杜市が成功している事例で、中間管理事業などを通じて、企業に１０年間、農地を貸し出し、栽培計画、資金計画を確認、農地整理員を配置して、支援する仕組みです。企業のSDGsに貢献につながる仕組みで、最近、関心が高まっております。次いで、林野、耕作放棄地を多様な企業、例えば商社、食品メーカー、また、スーパーなどに１０年間リース方式で貸し出し、企業で野菜、果実、薬草栽培や、また、太陽光発電等に貸し出すもので、この仕組みを糸魚川でも進められないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

一般企業の農業参入に当たりましては、農業に常時従事する役員等の確保や適切な営農計画の作成など、一定要件を満たした場合には農地を借りることも可能となっております。

また、太陽光発電や水力発電等につきましても、農振除外ですとか農地転用手続などの許可があれば可能となっております。

議員からご提案のありました北杜市さんのほうの取組状況というの、ちょっと調査研究してみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

山梨県北杜市の成功事例を、ぜひ参考にしてもらいたいと思います。企業で借りるため、かなり農地も貸し出しできるということで期待できるんじゃないかと思います。よろしく申し上げます。

５番目、今年度の仮渡金について。新潟県の２１年度産米の作柄状況では、作況指数９９から１０１の平均並みの見込みで見ましても稲も倒れてなく、豊作の予想です。米のJA仮渡金が７年

ぶりに低水準で、新型コロナウイルスの感染症で消費のバランスが崩れているということもあります。60キロ当たりで、令和元年度は1万4,900円から2年度1万4,000円の900円の減、また今年3年度は1万2,200円の1,800円の減収となる見込みで、在庫も同期で1割増増えております。減額は予想してましたが、予想以上で、今後、生産者の経営を取り巻く環境は厳しく、農業から離れる人はさらに多くなると考えます。

過去に、平成14年の水準1万2,000円まで下がったときには、作り手がいなくなった農地が一気に出たときもあります。今後、来期に向けて対策を考えなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

市としましては、昨年度からインターネット販売に対する支援や飼料米への作付転換の促進など、関係機関とともに対策を取ってまいりましたが、業務用米を中心とした全国的な需要の落ち込みにより、大幅な米価下落となり、経営への影響、そして営農意欲の低下を深く懸念しているところでございます。品質向上や収量の確保、スマート農業や園芸の促進、また、収入保険等への加入促進など、関係機関と連携して、早急に対応を、検討を実施してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ来期に向けて、早めの対策をお願いしたいと思います。

ここで、農業会議の中で高齢者の方からご相談がありましたが、高齢化のため30キロの米袋、また肥料袋を持ってないという多くの高齢者から聞きました。今後、20キロの米袋にして、女性でも持てる重さに変えていく方向で、JAの方々も含め検討できないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

JAひすいを通じまして、全農にいがたにお聞きしたところ、米の卸売業者において20キロの米袋の需要がないことから、対応が難しいという回答でございました。

ただ、全農にいがた及びJAひすいにおきましても、将来的な課題として認識しているということでもございましたので、市としても機会を捉えて要望してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ要望のほうをお願いしたいと思います。

続いて、2番目、森林管理と木材確保について、お伺いします。

（1）地元材の利用で糸魚川市の杉など人工林9,800ヘクタールは、45年から90年前に植林されたもので、50年サイクルが森林整備のベストで、糸魚川の森林を荒れたままにしておくことは、大きな災害につながる可能性が大きいと思います。今、需要がある追い風のときに具体的な事業転換が必要と思われます。地元材の切り出し、増産体制を強化していく方法として、森林組合と建設会社の方々、また、電力会社の線下伐採等に連携して、協力して出荷を進めることができなにか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

森林組合におきましては、以前から市内建設会社や他市の伐採業者と連携して森林整備を実施しておりまして、ウッドショック後は、さらに連携の強化をしているというふうに聞いております。

ただ、そのような状況は全国的なものでありまして、これ以上の連携強化は難しいともお聞きしているところでございます。

また、電力会社の線下伐採で出ました材を活用するとなりますと、新たに搬出するための道路が必要になることから、コスト・時間の両面から難しいのではないかと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ森林組合と建設会社の方でよろしくをお願いしたいと思います。

続きまして、近年、家庭用のエネルギーとして、まきストーブの需要が多くなり、地元材活用として、まき、ペレット、木材加工品、木育のおもちゃの販売など、小規模木製製品の開発の展示場、また、子供が遊べる場など、民間を入れて糸魚川市に作れないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕



○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

展示場につきましては、常設という形ではなく、イベント等、様々な機会を捉えまして、それぞれのターゲットに応じた形で対応してまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひイベント等、数多くやってもらいたいと思います。

次、（2）木材流通の川中に当たる製材工場が厳しい現状で、5社、先ほど近藤議員も質問しましたが、従業員が40名ほどということで、生産体制など今まで縮小していましたが、近年いきなりの木材の需要に増産体制が厳しく、こちらに新たな使い勝手のいい支援がないか、お伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えします。

川中だけでなく、川上に当たる森林組合においても同様の状態でありまして、ウッドショックがいつまで続くか分からないため、設備投資や新たな雇用に踏み切れないとお聞きしております。使い勝手のいい支援というのが、具体的にどういうことか、ちょっと分かりかねるところもあるんですが、仮にウッドショックを契機に、事業の拡大を図るため設備投資をしたいというお話であれば、どのような支援が可能か検討してまいりたいというふうに思います。

また、地場産材の需要拡大への支援ということであれば、支援の効果が川中だけでなく、川上、川下にも及ぶことから、現制度を検証し、必要に応じて拡充、新設してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ検討のほう、お願いしたいと思います。

3番目、糸魚川市の山林所有者は、小規模な地主が多く、6年前の統計で1から3ヘクタールの所有者が74%です。家の裏山の杉が伐採時期を迎え、大きくなり過ぎて危険な状態を見かけます。地場型森林活動や地域の住民自らの山林管理では、限界もあり、地主も高齢化しています。令和元年度のスタートの森林環境譲与税を活用したよい方策がないか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

森林環境譲与税、公金である以上、公共性があるかどうかということが重要になってくるかと思  
います。今、住宅の裏山のということでしたが、それが公共性があるのかどうかという判断になる  
かと思えますし、また、執行に当たっては、面的な集約による効率化も重要なことから、個別の対  
応というのは難しいのではないかと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次、4番目の伐採のため林道を大型車両で乗り入れる際、道路環境が悪く、今の車両ですと道路  
幅4.5メートルほど必要で、今後、伐採現場まで林道専用道の整備、造林作業道路整備補修の事  
業等を考えてもらいたいが、いかがでしょうかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

当市におきましては、急峻な地形かつ地滑り地帯が多いことから、毎年、林道の修繕が欠かせな  
い状況となっております。

また、年数とともに、規格が合わなくなっている林道等もありますことから、森林組合と協議の  
上、現場の状況を確認しながら森林整備計画に沿って整備を進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

では、森林の最後なんですが、こちら今後、冬の時期を迎えますが、山間部の道路脇で積雪のた  
め倒木が起きないように、あらかじめ見回り、また、地権者と話合いで、伐採のほうをよろしくお願  
いしたいと思います。

続きまして、GIGAスクールいといがわについて。（1）タブレットのメリットについて、課  
題を持ち帰ること、休校時、リモート学習できることなど利用は多くありますが、まずは慣れるこ  
とです。

この夏休み新潟市では、小学生、中学生にタブレットを家庭に持ち帰って使ってもらったと教育  
委員会の方に確認しております。いろんな場面で、必要なときに手軽に使えるICTですが、糸魚  
川市でも条件を整え、この冬休みまで持ち帰ることができるでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

現在、長期の休校を余儀なくされる場合、あるいは次の長期休業である冬休みに備えて、持ち帰りが可能なように準備を進めているところであります。現在のところでは、身体的な事情とか、あるいはコロナウイルス関連での事情で、やむを得ず欠席せざるを得ない子供たちについて、保護者からの申請に基づきまして、家庭への持ち帰りを認め、また、W i - F i 等でのオンラインもできるような形で行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

2番目の質問をお願いします。

学習効果の面で判断は難しいと思いますが、教職員の方々の手応えはあるでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（富永浩文君）

まだ1学期の4か月利用したというふうなことで、職員についての確実な手応えというものについては、十分な捉えはできておらないんですけども、やっぱり職員にとっては、何といたってもメリットは、モニターにタブレットを接続して、手軽に素早く、そして分かりやすく授業に活用ができるというふうなことで、好評であるというふう聞いております。

糸魚川市では、教職員一人一人にタブレットのほうを貸与しまして、子供たちに先んじて、家に持ち帰っても研修ができるようにというふうなことで、自主研修ができるように、そのような体制を取っておりますので、職員のほうも教材作製だとか、あるいは活用の方法について、自主研修を高めながら2学期に備えてきております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

今ほど富永課長が説明しましたが、ちょっと補足させてください。

学習効果というふうな面のご質問だと思いますが、1学期を経て、徐々に慣れて、そして今、指導する担任は、教師は、どの単元、その前にどの教科のどの単元、どういう指導内容で効果があるかないか、そこら辺りの、実際使ってみて、そして、子供の反応を見ながら、記録を取りながら時

間を進めています。ですから、2学期辺りから徐々に効果が現れる場面、どういう場面なのかということの情報交換が、各学校ごとに行われながら、糸魚川市としては、どの教科のどの単元で、どこを重点的に使っていくのかという方向が見えてくるだろうというふうに思っています。徐々に徐々に使いながら、子供も教師もお互いに効果がある場面で積極的に使っていくという方向が、今探っている最中でございますので、経過をぜひ見ていただきながらご支援いただきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次です。5番目に行きますが、昨日の新聞で、公立の小中学校や特別支援学校約3万校のうち、64.3%が災害時、非常時に備え、端末を自宅に持ち帰れるように準備済みということです。また、平常時で持ち帰りは25.3%でした。

糸魚川市では、通信環境のない家庭での対応は完了しているでしょうか。また、今後、新型コロナウイルス感染症対策で休校になる可能性が大きいです。環境格差のないように対応しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

有事に備えまして通信環境の整備については、各家庭にお願いしているところなんですけれども、要保護世帯につきましては、通信環境の整備あるいは維持の補助として、年間約1万円ほどの援助額を上乗せしております。

昨年の調べでは、未整備家庭がおよそ12%ほどございましたけれども、この春の調べでは、それが7%になっております。5%ほど整備が進んでいる、向上しているというふうに見てとれます。これからも啓発、支援、その両面から対応を進めていきたいと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ環境格差がないように対応のほうをお願いしたいと思います。

続きまして、（6）デジタル教科書が一部スタートしていますが、24年度本格導入する予定で、糸魚川市ではデジタル教科書を導入するのか、また一部教科書を残すのか、また、問題点は何かあるか、お聞きかせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

市独自としましては、教育長の説明がありましたけれども、教師用のデジタル教科書のほうを一部の教科で導入をしております。今後もそのつもりで進めていきたいというふうに考えております。

2024年には、小学校の新しい教科書が改訂されます。国としては、まだ方針のほうが十分定まっておらず、デジタル教科書を子供たちに配付するのか、それとも現在の紙の教科書を配付する、それを継続するのか、あるいは両方なのか。予算的な面もありますので、これは国の動向を注視しながら、また、市としても対応を検討し、進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

デジタル教科書をぜひお願いしたいと思います。特に、特別支援学校、またその学級での使い勝手がいいということも聞いておりますので、進めてもらいたいと思います。よろしく申し上げます。

次、確認なんです、ICT支援員は、今何人いるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

現在4名で、各学校を分担しながら計画的に支援に回っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

予定の4名ということですね、確認いたしました。

次、7番目、これ関連のあれなんです、昨年7月の学校職員の業務見直しについて、家庭に回覧した文書について、お伺いします。

その主な内容を読み上げさせていただきますが、学校では、新型コロナウイルス感染症防止や子供に対するきめ細かな指導・支援、登下校の安心・安全の確保など、様々な課題の解決に向け、現在努力を続けているところです。学校職員の業務の中心は、子供と向き合い、授業改善や学級づくりに取り組むことです。学校では、業務量が増加する中でも丁寧な対応に心がけながら、業務がおろそかにならないよう努めています。教育委員会で把握する学校職員の超過勤務は、様々な努力によって減少しつつありますが、依然深刻な状況にあり、教職員の多忙化は解消されていません。

そこで、職員が本来の業務にゆとりを持って専念できるように保護者や地域の皆様に、より理解

いただきながら、以下のとおり学校職員の業務の見直しを進めてまいります

そこで、1番なのですが、学校行事、それに関する諸活動、部活動等の実施時間の見直しは、行われたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

市としましては、糸魚川市の学校教員の勤務時間の上限に関する方針というものを出示して、それに基づきまして、業務改善を進めているところであります。今ほどの行事、それから関連する諸活動、部活動についても、コロナ禍ということもありますけれども、できる限り計画のほうを見直しながら負担感・多忙感がなくなるような形で、それでも教育の本当の目的を達成できるような方法で精選、それから効率化を図っているというところであります。部活動につきましても、県・国の補助金等を活用しながら、補助事業を活用しながら地域人材のほうを活用して、教職員の負担軽減のほうを図ろうと、今取り組んでいるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次です。先ほど地域人材の活用とありましたが、外部のボランティア活動は行われているか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

糸魚川市では、全ての学校で学校運営協議会、コミュニティスクールを取り入れておりますし、また、生涯学習と連携しまして地域学校協働活動、学校応援隊、そういった団体を使いまして、取組を進めております。各学校においては、教育活動や、あるいは子供の安全・安心を確保するような学校運営、その中に地域人材を有効に活用しているというふうに捉えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

教職員の方々の計画的な休暇取得が促進されているか。また、時差出勤、また、在宅勤務の導入がなされているか、2点、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

子供たちに対応するというふうなことから、学校の特色としてなかなか休みを取りにくいというふうな部分があります。

ただ、やはり教職員のメンタルヘルス、そういったものからすると計画的な取得が必要であるというふうなことで、校長とも話しながら、指導しながら取得を呼びかけてるところであります。

また、時差出勤、あるいは在宅勤務につきましては、長期休業中を使いながら早出、早上がり、遅出、ちょっと遅い上がりというふうな方法を取り入れたり、在宅での業務が可能である業務について、在宅勤務を積極的に取り入れるように指導してきておりますし、各学校においては、全ての職員においてそういった在宅勤務、時差出勤などを取り入れて業務を行っているというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

部活動の顧問の先生、また、教頭先生など、残業時間が多くなると考えますが、こちらの方々、残業の範囲内に収まっているか、お伺いしたいんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

校長会等を通じまして、当該教職員の勤務時間の適正化、あるいは負担軽減、あるいは1人に偏らないような勤務時間の平準化、そういったものを指示しております。毎月報告される超過勤務の実態を注視しながら、まだまだ改善しないところも学校によってはありますので、個別に困り感などを聞きながら、サポートできるところはないか対応していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ改善のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

次、8番目の新型コロナウイルス感染症対策の状況について、お伺いします。

今までと違った広がりがありますし、11歳以下の子供が新型コロナワクチン接種ができないこともあり、この一、二週間大変な状況になっております。

医療機関の応援のように70歳以上の看護師の方で、手伝っている方もおられます。この期間を

乗り切るため、教職員の定年退職された方、養護教諭の方など応援をもらい、少しでも教職員の負担、また、子供の安心につながるようにしてもらいたいのですが、糸魚川市教育現場での現在の対策をお聞かせください。

また、緊急で必要なものはないかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

学校のほうでは、新学期早々、新しい変異株の蔓延によりまして、対応のほう、大変緊張感を持って取り組んでいるところであります。

やはり利根川議員が、お話しされましたように、こういった部分でも地域の人材、保健関係のお仕事に従事された方がOBで地域におられるようであれば、活用するというふうなところも検討していきたいというふうに考えております。

また、今学期中に子供たちの朝の検温がしやすくなるように検温器、モニター付きの体温測定の測定器のほうを各校に常備するように今準備を進めているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

こちらはちょっと昨日、父兄の方から聞かれたんですけど、家庭内での感染で親がなり、そのとき子供の対応はどのようにしていったらいいのか、前回の質問の方もあったと思うんですが、もう一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

家庭での感染者が発生した場合、子供たちが本当に困る場合が出てきます。基本的には、家庭のほうでいろいろな形で対応を工夫していただいたりというふうなことが原則かと思うんですけども、やはりこれまでもそうでしたけれども、学校は、保護者からの要望に対応してまいりましたし、教育委員会も学校からのそういった情報に基づいて、関係各課、機関等、連携しながら何らかの形で対応できないか検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ早めの対策、判断をお願いしたいと思います。



ここで、糸魚川市の新たな教育長にお尋ねしたいんですが、糸魚川市の教育についてお考えをお聞かせ願いたいんですが、よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

子ども一貫教育、糸魚川市独自の妊娠期から18歳までの方針、基本計画、年次計画等が示されています。ひとみ輝く子供をみんなの力でもって、地域ぐるみで育てようというふうな方針の下で今現在、進めていますので、その一層の充実、その中に子供が安心して学べ、育ち、そして、自分の夢や希望に向かってぐんぐん伸びていく。そんなふうな環境づくりに組織を挙げて、邁進してまいりたいという方針であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ありがとうございました。

最後に、教育は難しく、繊細です。今、大変な環境下ですが、社会が変化していく中、家庭の単位として子育てから社会全体での子育てに変わっていく必要があります。親の共働き、放課後の居場所づくりなど、地域と学校が一体となり、総ぐるみで子育て体制をつくる必要性を強く感じました。これからも糸魚川市の教育環境がよくなるようにお願いしたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、利根川議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。再開を1時といたします。

〈午後0時02分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。